

新時代の日ASEAN関係
～連携と協創による持続可能な社会の実現に向けて～
概要

2021年6月15日

一般社団法人 日本経済団体連合会

1. はじめに

ASEAN（東南アジア諸国連合）：

- ・ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナムの10カ国より構成
- ・1967年の設立以来、域内における経済成長、社会・文化の発展に取り組み

○ ASEANを特徴づけるキーワード

ASEANの多様性

ASEANに加盟する10カ国それぞれが言語、民族、文化、風土、政治体制などで異なる特徴

ASEANの中心性

域外の国々との関係において、ASEANのプレゼンスと利益を確保

ASEAN各国・一体としての経済成長

(各国)

第一次、第二次、第三次産業など、各国それぞれの政策のもとで着実に成長を実現
近年、産業のデジタル化、スタートアップ育成などを成長戦略に取り入れる動きが加速

(ASEAN)

域内の関税撤廃やインフラの整備など、物理的・制度的連結性を推進
ASEANの中心性に基づき、域外との経済連携協定等を締結

⇒ASEANは世界の成長センターとしての高い潜在力

日本は、**ASEANとの連携を強化し、ともに発展を目指していくことが重要**

2. 日本とASEAN諸国との関係構築の歩み

日ASEAN関係：

- 地理的に近接
- 二国間、地域、ASEAN全体など重層的関係を構築
- 社会資本の整備、自由貿易協定締結をはじめ官民を挙げて発展と繁栄のための連携・協力関係を構築

1980年代半以降

- 豊富な労働力人口、勤勉な国民性、市場拡大の潜在力、インフラ整備の着実な進展などの優位点を持つASEAN各国への事業展開を本格化
- 貿易・投資関係を拡大



現在

(製造業)

- 海外における生産拠点の中核として極めて重要な位置
- 張り巡らされたグローバルサプライチェーンは、国際競争力の源泉

(非製造業)

- 物流や金融・保険などのサービスを通じた製造業のサポート
- 拡大する消費・内需に対応

ASEANに進出する日本企業は、各国における雇用創出・人材育成に大きな役割を果たしながらともに成長の道を歩む

⇒日本とASEANは、強固な紐帯で結びついた一体不可分のパートナー

3. 変動するグローバル環境のもとでの日ASEAN関係の重要性

時代の転換期：

- 新型コロナウイルスの感染拡大、地球温暖化に伴う気候変動問題の深刻化等のグローバル課題の顕在化
- デジタル技術の活用により利便性が向上する一方、予期せぬ社会的リスクが表面化
- 多くの国で内向き志向が強まり、国際経済秩序は大きな揺らぎ



持続可能な社会の実現のため、多国間で連携し、
新たな発想を打ち出し、実行していくことが必要

経団連は、こうした問題意識のもと、持続可能な社会の構築に向け、
2020年11月に「。新成長戦略」を公表

⇒日本とASEANは、アジア地域のキープレイヤーとして
今後の世界経済を牽引するとともに、社会課題を解決していく必要

⇒**日本の経済界は、ASEANとの連携を一層強化しながら、
持続可能な社会の実現に向け新たな価値を協創し、
新時代をともに切り拓いていくことがますます重要**

4. 新時代の日ASEAN連携と協創

日ASEANの力強い成長の実現と社会課題解決：

＜連携＞ 各国の多様性やニーズを踏まえ、インフラ整備や多様な産業分野で貿易・投資を継続、人材育成や技術移転等も実行

＜協創＞ 気候変動をはじめとする日ASEAN共通の課題に対応

＜新成長分野の開拓＞ DXの推進を通じたスタートアップ協業等によるSociety5.0の実現

ASEANの持続可能な社会の実現に向けた5つのAction

力強い成長

(1) 連結性強化に向けたハード・ソフト両面の社会資本整備

- ① 質の高いインフラ整備を推進する
道路、橋梁、港湾、空港、電力など質の高いインフラの整備による連結性強化
電子化された貿易プラットフォームの構築
- ② 制度インフラを充実させる
RCEP協定早期発効、各国の事業環境整備など制度インフラ充実
- ③ グローバルサプライチェーンを強靱化する

社会課題の解決

(2) 持続可能な成長の実現

- ① 気候変動問題に対応する
省エネ、再生可能エネルギーなど脱炭素化に貢献しうる技術のASEANへの普及
サステナブル・ファイナンスを通じた後押し
- ② 環境負荷の低い社会を構築する
海洋プラスチックゴミ問題等の解決への技術・ノウハウの共有等
- ③ 防災・減災に取り組む
日本のハード・ソフトの知見・経験を共有
- ④ 医療・ヘルスケア協力を進める

(3) デジタル技術の活用 / (4) 人材育成 / (5) 人的交流

5. おわりにー「心と心の触れ合う関係」の深化

- 先達が長年にわたり育んできた日本とASEAN諸国との人と人とのつながり、「**心と心の触れ合う関係**」は、連携・協力関係の基盤となる財産
- 経団連は、これまでASEAN諸国へミッションの派遣、合同会議の開催等を通じて政府や経済団体との間で政策対話を実施次世代を担う人材に対して奨学金を創設、運営しており、こうした活動を継続・強化
- 今後、日本とASEANとが連携・協創し、新たな価値を創出**本提言の実現に向け、ASEAN政府・関係者との政策対話などを展開持続可能な社会実現に向けて力強く前進**

別添

次の分野を中心に、今後、ASEAN諸国との対話を行いながら、連携・協創を行っていく。

1. 連結性強化に向けたハード・ソフト

両面の社会資本の整備

(1) ハードインフラ整備

- ✓ 質が高いインフラの展開（高規格道路、橋梁、鉄道、港湾、空港整備等）
- ✓ 地域の産業の核である工業団地の開発・運営の継続
- ✓ サイバーセキュリティの観点も踏まえたインフラ整備
- ✓ 渋滞解消など都市圏の抱える課題に対処した快適な街づくりへの協力

(2) ソフトインフラ整備

- ✓ 地域的な包括的経済連携（RCEP）協定の早期発効と、発効後の積極的活用ならびにインド参加の働きかけ
- ✓ 行政の効率化・円滑化等のためのキャパシティ・ビルディング
- ✓ 中央・地方政府における手続きの円滑化を含めたビジネス環境整備
- ✓ デジタルトレードプラットフォームによる貿易手続の円滑化
- ✓ テクノロジーを用いた物流の効率化

2. 持続可能な成長の実現

(1) グリーン成長の実現

- ✓ 日本企業が有する技術やノウハウのASEAN諸国への展開
- ✓ 移行期における対応を含む脱炭素社会実現のための連携

(2) 環境負荷の低い社会の構築

- ✓ 海洋プラスチック問題対策、土壌汚染や水質汚濁の防止、森林の保全などに資する企業活動の継続

(3) 防災・減災への取り組み

- ✓ ハード・ソフト両面における災害対応の知識・経験の共有
- ✓ 防災に関する人材育成の支援
- ✓ 災害から速やかな復興を支える融資、保険等の金融制度の構築や普及

(4) 医療・ヘルスケア協力

- ✓ 医療・介護人材の育成強化の推進
- ✓ ライフコースデータやAIの活用、遠隔診療等、ITを駆使した健康医療インフラシステムの整備

3. デジタル技術の活用による新たな成長分野の開拓とSociety 5.0の実現

(1) スタートアップ連携

- ✓ 日ASEANのスタートアップ連携に資する機会の創出
- ✓ 日本とASEANとを結ぶイノベーションエコシステムの構築支援

(2) スマート社会の実現

- ✓ スマート社会の基盤となる5GならびにBeyond 5Gの早期・円滑な実装に向けた協力、その他、海底ケーブルなどを含む基幹通信網の整備
- ✓ ICTプラットフォームの展開によるスマートシティ実現への参画
- ✓ 生体認証技術等を活用したウィズ・ポストコロナ時代に即した非接触型ソリューションの実装
- ✓ 国際標準化における日ASEANの連携
- ✓ サイバーセキュリティ人材育成の支援
- ✓ セキュリティ・バイ・デザインに基づいたシステム基盤の実装支援

(3) ルール作りへの協力・参画

- ✓ 信頼ある自由なデータ流通を原則とする国際的ルール作りへの連携
- ✓ 個人情報保護等のデジタル化の進展による社会の変化を踏まえたルール作り

4. 人材育成への取り組み

- ✓ 技術習得にとどまらない「人財」育成
- ✓ 日ASEAN間の大学間連携や交換留学プログラムの拡大

5. 人的交流の促進

(1) 観光振興等

- ✓ 観光客誘致による地域の活性化
- ✓ 伝統文化、食文化、ポップカルチャー等の展開

(2) 経団連の取り組み—政策対話の実施

- ✓ 「ASEAN経済連携強化部会」の設置と活動の展開
- ✓ ASEAN各国へのミッションの派遣・政策対話の実施
- ✓ 在京各国大使館との意見交換の実施